

“To say ‘I love you’ one must first know how to say the ‘I.’”

- Ayn Rand -

ワンデイ・セミナー

アイン・ランドと利己主義の美德 ～自分のために生きる哲学～

ゲスト: ヤロン・ブルック

(米国アイン・ランド協会 エグゼクティブ・ディレクター)

モデレーター: 田村 洋一

(メタノイア・リミテッド代表取締役)

2017年5月3日 (祝・水)

9:30

受付/開場

10:00

開始

<開催概要>

10:00 - 12:30 第一部 講演・討論

講演: 「アイン・ランドの哲学と利己主義の美德」

討論 ～ 非合理的な世の中で合理的に生きる ～

12:30 - 13:30 (昼食)

13:30 - 16:00 第二部 講演・討論

講演: 「格差と貧困、政府の役割」

討論 ～ 平等は不公平か? ～

(逐次通訳あり)

丸ビルコンファレンススクエア

東京都千代田区丸の内2-4-1 丸ビル8階 Room 1

参加費

10,000円

※ 3/31までの申込・事前振込により早期割引 8,000円

※ お弁当をご希望の場合はプラス1,500円 (事前受付のみ)

定員

30名 (先着順)

申込

※ 下記サイトよりお申込ください。

<http://kokucheese.com/event/index/458165/>



哲学を学ぶとは、どういうことか？

「自分のために生きる」とは？

哲学を学ぶ者と学ばない者との違いは、学ばない限り人は暗黙の哲学によって導かれていて、その暗黙の哲学の矛盾や間違いに気づいていないということです。明示的な哲学を学ばない人は、親のしつけや学校教育や地域の生活や国の文化などから多くの暗黙の哲学を知らぬ間に身につけ、思考や行動を左右されながら生きています。

利己主義者を自認する人間でも、自分もまた本当は世のため人のために尽くさねばならないのではないかという強迫観念や罪悪感に苛まれていることがあります。オブジェクティビズムを学ぶことは、世間やアカデミズムにはびこる矛盾や欺瞞を打ち払い、世の中に流されずに自分の人生を生きる方法を手に入れることです。

今回のセミナーでは対話・議論を通して、オブジェクティビズムを日常生活や人生、組織やコミュニティ、政治と社会問題、日本文化にどのように応用できるかを探ります。

(田村洋一)



講師：ヤロン・ブルック Yaron Brook

米国アイン・ランド協会 エグゼクティブ・ディレクター。アイン・ランドの思想であるオブジェクティビズムに基き幅広いテーマで「フォーブス」、「ウォール・ストリート・ジャーナル」等多くのメディアに寄稿し、ラジオ・テレビにもコメンテーターとして出演、世界各地で講演を行っている。近著に『平等は不公平：格差との不毛な闘い』。ファイナンス博士（テキサス大学オースティン校）、MBA（同）。



モデレーター：田村 洋一

日本の教育家・実業家。2002年よりメタノイア・リミテッド代表取締役。人材育成、組織開発のためのエグゼクティブコーチングなどを行う経営コンサルタント。2008年よりシステム思考応用研究会（STARクラブ）、合理的意思決定とコミュニケーションのためのディベート道場を主催。1986年にアイン・ランドの思想に触れ、オブジェクティビズムの学徒となる。上智大学外国語学部卒業、バージニア大学MBA。

アイン・ランド Ayn Rand (1905-1982)

ロシア生まれ。アメリカの「保守の女神」とも呼ばれる思想小説家。1936年『われら生きるもの』で小説家としてデビュー。1943年の『水源』がベストセラー。個人主義・合理主義・資本主義を柱とする独自の哲学「オブジェクティビズム」を小説やエッセイを通じて世に問い続け、1957年の『肩をすくめるアトラス』は米国議会図書館の調査で「聖書に次いでアメリカ人に最も影響を与えた本」とされた。

